公益社団法人霧島青年会議所　２０１９年度　第二回理事会　議事録

開 催 日：平成３１年２月２７日（水）

開会時間：２０時１５分

閉会時間：２４時００分

開催場所：ＪＣ会館

1. 開会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　重野　隆太　 君
2. JCIクリード唱和　　　　　　　　　　　　　　　板元　幸仁　　君
3. JCIMISSION及びJCI Vision唱和　　　　　　盛田　啓仁　　君
4. JC宣言文朗読並びに綱領唱和　　　　　　　　　　鈴吉　美絵　　君
5. 霧島JC未来ビジョン唱和　　　　　　　　　　　木野田　幸平　　君
6. ２０１９年度スローガン唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　同上
7. 理事長挨拶

理事長　藏元　国明君

　皆さん、こんばんは。まずは開会が１５分程遅れましたこと、お詫び申し上げます。また、本日は専務の前田くん、事務局長の橋くんがまだ来ていない状況です。前田くんについては、ヘルニアで絶対安静という状態ですので、本日は欠席となります。事務局長は１時間ほど遅れるということで、本来ならば運営方の方が体調管理をしながら見本を示さないといけないところ、このような形になってしまっていることを大変申し訳なく思います。話は変わりますけれども、２月になりまして訪問例会等などございました。皆さんもお忙しい中、各地の訪問例会にご参加いただきました。なかなか、他のＬＯＭの例会を見る機会がない中で、霧島青年会議所の良い部分や逆に足りないところが見えたのではないかと思います。このように外に出ていきながら、我々がやっていることが正しいことなのか、時代にあっていることなのかを確認しながら、自分たちの行動に反映していただければと思います。また、本日は来ていらっしゃいませんけど、東井上出向役員がブロックの方で頑張っていただいております。今申し上げました通り、外に出ていくという一つの形が出向であります。是非、東井上君を支える意味を含めて、また自分のネットワークを広げる機会でもありますので、自分の可能性を広げるという機会をつかむためにも出向をしていただければと思います。話は変わりますけれども、１月の理事会から事業系の議案書が提出されている状況です。お忙しい中委員会を開催していただきまして、委員会の意見をもって本日議案に上程していただいていることと思いますけれども、まずは委員会メンバーが、自分たちが政策として打ち出す事業に対してワクワクしているのか、これをしたらすごく良くなるよねという気持ちになっているのか、共感の輪というものが委員会という一番小さい輪の中で広がらないことには、この理事会でも、また地域に対しても広がることはないと思っております。まずは委員会でそこの話を突き詰めていただきまして、議案書にしたためていただき、理事会はあくまで意見をもらう場ではなく議決をする場となりますので、共感をいただける内容で提出していただけたらと思います。その委員会の想いというものを背負って委員長は来られていますので、その想いをしっかりと答弁に乗せて、お話をしていただけたらと思います。開会が遅れたことで本日の終了時刻も遅れるかもしれませんが、運営方といたしましては時間内に収めるようにしっかりと運営をしていくつもりですので、その中でも忌憚のない意見をいただきながら、この理事会を良いものとなることを祈念いたしまして、理事長の挨拶と代えさせていただきます。本日もよろしくお願いいたします。

1. 直前理事長挨拶

直前理事長　前田　数馬君

　皆さん、お疲れ様でございます。本日、第二回理事会が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。理事長からもございましたが、執行部も専務が体調不良ということで来られていない中ではございますが、こういう欠員が出る時にこそ皆さんでカバーできるように理事会のメンバーが協力しあって、この理事会を進めていっていただければと思います。先日、昨年から取り組んでおりました、姶良・伊佐地区社会福祉協議会との災害時防災協定が結ばれました。皆さんのご協力を持って、２０１８年度から取り組んで参りましたものがついに実を結びました。ですが、ここからが本番であり、調印が目的ではございません。災害の時に、霧島青年会議所全体が社会福祉協議会とともに災害支援をやれるように、日々取り組んでいただければと思います。そうすることによって、この地域にとって青年会議所があって良かったと思っていただけるような日がくるんじゃないかと思いますので、是非今後の活動をよろしくお願いいたします。本日は、色々と協議、審議とある中で、仮会員の承認もあり、新しいメンバーが入ってきてくれるということで、私もシニアでありながら感慨深いものがあります。今後ますます、霧島青年会議所の会員が増えて大きな力が持てるように日々願っておりますので、私も会員候補者をどんどん見つけていきたいと思っておりますので、今後とも新しい仲間を増やしていっていただけたらと思います。良い意見、良い指摘がありますことを祈念いたしまして、直前理事長の挨拶と代えさせていただきます。本日もよろしくお願いいたします。

1. 顧問挨拶

顧問　竹下　圭一郎君

　まずは、本日第二回理事会が開催されますことをお慶び申し上げます。運営方の方が２名欠席ということですが、人間ですのでそのような時に何ができるのか、今日は南郷財政局長が代理をしていただいておりますが、ただやるからにはしっかりと準備をした上でやってあげないと、結局は二人のせいになってしまいます。代わった人が何か不手際を起こせば、来なかった人が悪くなってしまうので、やはり代わりを受けたのであれば完璧なものを責任を持ってやっていただければと思います。今、責任という言葉を使いましたが、今ここにいる皆さんは会員から委託を受けて、この理事会に取り組んでいただいております。今回この理事会にあがっている議案を、メールで田上副理事長から連絡をいただきましたが、見はしましたけれども、その後のレスポンスがない。たとえば他の委員会については議案をあげているだけ。もちろんこの場は、ロバート議事法の中で、多数決で最終的には議案は通ります。ですが、ロバート議事法では少数の意見や色々な意見を踏まえた上で判断をしていかなければいけない。今もし、多数決で議案を通せると思っているのであれば、ＥＵを脱退したイギリスみたいになるのではないかと思います。本質を見抜かないまま、自分たちの感覚で議案を通してしまうと、本当にこの先の未来を見据えていることにはなりません。イギリスはＥＵを脱退してから、本当に困難な状況に陥っているようです。たとえば、日本の自動車メーカーの工場がなくなって地域住民の仕事がなくなったり、ＥＵを脱退したことで税金もかかるようになったり。本来、地域住民が多数決で決めた指導者が、国の方向性を決めます。もちろん、民意は大事です。そして、人数が多いものの意見、多数決は大事です。ただ、その大事なものにそれぞれの知識がないまま、それを数の原理で通してしまったらどうなるか。僕が恐れているのは、本当に皆さんが、会の他の皆さん以上に知識を得て、自分の感覚ではなく自分の知識で判断ができているのかということです。霧島青年会議所が霧島青年会議所である所以は、やはり先見の明をもった若者たちがしっかりとしたものをこの地域に落としていく場となること、そのために私たちにしかできないこと、まちの中心となって共感の輪を広げていくこと、それがこの理事会の場でできるかということが、２０１９年度以降の霧島青年会議所の在り方になるのではないかと思っております。現在会員も増えて、ＬＯＭとしては勢いも増してくる雰囲気はできています。ただこの雰囲気が、やはり熱を持っている人と持っていない人との温度差につながると思います。結局最終的には、熱を持っていない人はいなくなってしまう。その危機感を持ちながら、私たちは拡大とこの会議に向き合っていなかないといけない。ただやればいい、ただチャレンジすればいいじゃなくて、チャレンジの向こう側にどういう答えがあるかを見据えて、この議案の作成に取り組んでいただきたいと思います。本日は出だしから厳しめを言いましたが、やはりこの２０１９年度の事業が今から始まるということで、委員長の皆さん、副委員長の皆さんには覚悟を持って取り組んでいただきたい。覚悟の見えない議案に対しては私も言いたいと思いますし、それがもしかしたら声なき声、サイレントマジョリティーと言われている、言いたくても言えない人の声となっているかもしれない。盛田委員長、今アンケートを取っていますね。あのアンケートが１００％の回収率なのか、もしくはちゃんと回収できなかったのか、もしアンケートを回収できなかった人がいたとしてその声をちゃんと拾えているかは、盛田委員長にかかっています。是非１００％を目指して、１００％の中でも本音を言わない人もいます。だから僕らはその裏にある本質を見抜かなければならない。物事にはすべて本質があって、その本質を間違えるとすべてがうまくいかないということになります。是非そこに気を付けていただければと思います。本日は多少開始が遅れましたので、ガンガン進めて、意味のない議案はどんどん切っていただけたらと思いますので、委員長の皆さんも心して取り組んでください。以上で顧問の挨拶に代えさせていだきます。本日もよろしくお願いいたします。

１０． 議長選出

審議事項：理事長　藏元　国明

協議事項、報告事項：財政局長　南郷　英俊

１１．議事録作成人並びに署名人の指名

議事録作成人：南郷財政局長

　　　議事録署名人：鈴吉副理事長、重野委員長

１２．出席者及び定足数の確認

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 藏元国明 | 〇 | 鈴吉美絵 | ○ | 木野田幸平 | ○ | 田上俊介 | 〇 | 重野隆太 | 〇 |
| 板元幸仁 | 〇 | 盛田啓仁 | ○ | 前田大悟 | × | 南郷英俊 | ○ | 橋正貴 | × |

　　理事１０名中８名出席により定足数を充たしていることを確認した。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 前田数馬 | ○ | 竹下圭一郎 | ○ | 井上正樹 | ○ | 常盤大和 | ○ |
| 東井上陽平 | × |  |  |  |  |  |  |

　　役員５名中、４名出席により定足数を充たしていることを確認した。

オブザーブ　濱田くん

１３．議題並びに資料の確認

審議事項４件　　協議事項５件　　連絡・報告事項３件　となっております。

１４．議事録承認の件

田上　：確認させて頂き問題ないことを報告させて頂きます。

盛田　：確認し、不備なきことをご報告させて頂きます。

１５．議題

審議事項１：仮会員承認について（松元　貴洋君）の件

藏元　　：仮会員承認について、似ているところもございますので、一緒にご説明をしていただきたいと思います。まずは松元貴洋くん、永田純一くんにつきまして、議案上程者の木野田副理事長、よろしくお願いいたします。

木野田　：松元貴洋くんと永田純一くんについて、あげさせていただいております。詳しくは委員長より説明させていただきます。

板元　　：資料等についてはすべて揃っており、第二回正副理事長会議の際にいただいたご意見につきましては、反映させていただいております。ご確認の上、ご意見、ご質問などよろしくお願いいたします。なお、資料につきましては紙で持ってきておりますので、お目通しのほどよろしくお願いいたします。

藏元　　：では、お目通しをいただいている間に、それぞれ面接をされた方にご説明をいただきたいと思います。松元くんについては、板元委員長。

板元　　：松元くんについては、私と副委員長の瀬戸口くんとで面接を行いました。昨年の未来教室に参加していただき、引き続きで１月の異業種交流会にも参加していただき、すごく前向きに取り組んでいただける方で、入会についても快諾をしていただけました。

藏元　　：それでは、永田くんについては私の方から。皆さんご存知の方もいらっしゃると思いますけれど、２０１５年まで頑張っていただいておりましたけれども、諸所の事情で退会をされておりました。今回改めてお話をさせていただきまして、ＪＣを辞めてから思ったことは、ＪＣのネットワークはやはりすごく大事なものだと思うということで、復帰をしていただくことになりました。すごく真面目で、実直なところもある方です。それでは、ご意見、ご質問等はなかったでしょうか。

前田　　：永田純一くんについては、仮会員スケジュールはあるのでしょうか。

藏元　　：一回辞めておりますし、以前同様のケースがありました。その際にも仮会員から始めていただいたという経緯もありますし、本人の意見を聞いたところ、もう一度仮会員からやりたいということも言われておりましたので、今回は仮会員からということで進めていきたいと思います。

鈴吉　　：松元くんについては、連絡先が電話番号のみでＦＡＸやメールもないということで、もしどちらもない場合には郵便物で対応すると執行部からはいただいておりましたが、どのように対応されるのでしょうか。

板元　　：松元くんともお話をしまして、Ｇメールアドレスを一緒に作ることになりましので、そちらは早急に進めていきたいと思います。

藏元　　：他になきようでしたら、審議に諮りたいと思います。

全会一致で審議可決

審議事項２：仮会員承認について（永田　純一君）の件

藏元　　：審議

全会一致で審議可決

審議事項３：２０１９年度　４月例会計画書並びに予算書（案）の件

田上　　：４月例会の議案につきまして、３回目となっております。先ほど竹下顧問からもありましたように、竹下顧問と常盤監事から事前にご意見をいただいていたにも関わらず、返事をしておらず申し訳ございませんでした。内容につきましては、ご意見をきちんと反映させていただいております。詳しくは盛田委員長より述べさせていただきます。

盛田　　：事前配信にてご意見をいただいた箇所につきましては黄色と赤文字で修正をさせていただいております。お目通しいただき、ご意見・ご質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

藏元　　：審議案件ですので、財政からコメントをお願い致します。

南郷　　：予算書の根拠となる資料も添付していただいておりますので、問題ないと考えます。

藏元　　：その他、ご意見・ご質問等ございませんか。

竹下　　：背景で、「効果的なＪＣ活動・運動をするうえで意思の統一と夢を描けるまちへと導いていける組織となる必要があります。」と書かれていますが、なぜ夢を描けるまちへと導いていく必要があるか教えてください。

盛田　　：今回は例会の背景については統一ということで、このような書き方をさせていただいております。また、私が考える夢を描けるまちへと導いていける必要ですけれど、理事長の所信にもあります「地域の抱える問題に圧倒的危機感を持って真剣に取り向き合い、改善に向けて果敢に挑戦することで地域に変化をもたらす人材となる」という点だと考えます。

竹下　　：では、効果的なＪＣ活動・運動とは何ですか。

盛田　　：自分たちが率先して事業に関わっていき、事業を効果的なものにするための意思の統一だと考えます。

竹下　　：そもそも、なぜ例会をしないといけないのですか。

盛田　　：例会をする必要性といたしましては、毎月１回以上例会を行わないと決まっておりますし、せっかく皆さんに集まっていただきますので、来てよかったと思っていただけるために、今回はメインプログラムをご用意させていただいております。

竹下　　：例会をすることと夢を描けるまちへと導いていける組織となることのつながりを教えてください。

盛田　　：その点については必ずしも同じではないのですが、本年度の私どもの担いもありますし、やはり集まっていただくからには有意義なものにしたいという想いもありますので、例会をより良いものとするとともに、事業についてもより良いものとするために、このような形といたしました。

竹下　　：例会をすることと夢を描けるまちへと導いて組織となることは、どちらの方が重要ですか。

盛田　　：私の主観では、行うことが決まっている例会の方が重要だと考えます。

竹下　　：それは、なぜですか？定款で決まっているからでしょうか？定款で決まっていることを議案であげる必要ないです。これは事業ではありません。ではなぜ議案であげる必要があるのでしょうか？

藏元　　：この件につきましては、今まで霧島青年会議所でこのような形で進めてきている経緯がございます。ただ、竹下顧問が言われることもありますけれども、今後例会を事業として計画書をおこすのか、メインがあるのであればメインの事業計画書をおこして例会はおこさないのか、どのような形が良いのかを今年一年をかけて模索しながらで、竹下顧問、前田直前、そして経験者のいらっしゃるうちに、やり方を考えていきたいと思います。今回につきましては、今話をしていることを盛田委員長一人が答えるというのは厳しい状況でございますので、そこはご勘弁願えればと思います。

竹下　　：だから自分は、事前に正副の意見を教えてくれと言いました。正副の見解は自分には一切来ていない。この議案が審議に値するかしないかと言えば、しないです。なんでそんな意見が出たときに、正副がもっと動かなかったのか。中途半端に目的を２個あげると、この下に入ってくる事業が、何を見ていいかがまったく分からない。例会をすることが目的であれば抜けがないか確認をするだけ、メインをするのであれば、そのメインが本当に目的に達する内容かを見ればいいのだが、今の状態だと何をもめばいいのかわかりません。例会をすることが目的だったらこれでいいけど、だったら余計なものをつけなければいい。でも来た人に対して何か気づいていってほしい、感じてほしいのであればきちんと計画書をあげなければ伝わらない。そこに伝えようとする努力が見られないです。これは委員長の責任じゃない。自分はみんなに見えるように意見をしたので、正副はそこで対応してもらわないと委員長は困るよ。今後ちゃんとやっていきますと言って、これを今の状態で通すのか、もう一回やり直すのか見解を示してもらわないと、適当でいくのであれば別にいいけど、それなら議案に対してもう特に意見はありません。今後どうしていくかの見解を教えてください。

藏元　　：この件につきましては、申し訳ないのですが、このままいかしていただきます。次回の議案からはしっかりと意見に対応できるように、正副と、また役員との間の話もしっかりとできるように進めていきたいと思います。

竹下　　：納得はできないけど。これでは、最初に言ったＥＵの問題と一緒だよ。知識のない人たちが数で決めていけば間違った方向にいくよ。本来ならば通すべきではない。これを許したら他の人も一緒になる。いきなり変わったらおかしくなる。これを見逃してくれと言うのであれば他の人のハードルは高くなると思います。

常盤　　：今出た意見というのは、事前配信に対しての指摘に対して返答がなかったこと、私自身も細かい点ではありますけれども指摘を出させてもらって、それに対しての返答はありませんでした。ただ、どのような意見がありどのように対応したかについてみんなが見えるような形を取っていれば、今のような意見はなかったかもしれません。その点については、悪くしようと思って意見を言う人はいないので、是非みんなが共有できるように、今日言われても今日の今日で言いづらいところもありますし、前もって早め早めに言っていただけたらと思います。議案の中身について意見はございません。

井上　　：常盤監事の言われた通り、理事会の前にきちんと意見を共有できていればこのようなことは起きなかったのではないかと思います。それぞれが納得する形で事前チェックをして、理事会に臨んでいくことが一番大事だと思いますので、その点は自分自身も反省しながら、次にこういうことがないようにしていくことができればと思います。顧問からも意見がありましたが議案をよりよくするための意見と前向きに捉えていただいて、良い方向に進めることができればと思います。それぞれの当事者意識というか、他人の議案ではなく自分自身の議案と捉えていればこのようなこともないと思いますので、今回はこのような形で良いのではないかと思います。

前田　　：執行部と副理事長さん方としっかりと話をしていただいて、委員長は委員長として自分の良いと思うものをしっかりと自信を持って伝えることができるように、竹下顧問が冒頭の挨拶でも言われていたように、覚悟を持って取り組んでいただき、議案に対する質問に対しても自信を持って答えることができるようにした準備をしっかりとした上で臨んでいただければと思います。

田上　　：私もお願いをするだけで、その後直接確認をすることがなかったため、今このような状況になってしまい申し訳ありませんでした。今後このようなことがないように、気を引き締めていきたいと思います。

藏元　　：審議に諮りたいと思います。

全会一致で審議可決

審議事項４：２０１９年度啓発事業　広報誌政策計画並びに予算（案）の件

木野田　：啓発事業となります。会員のお金を使用して事業を行うなかでありますが、今回審議頂くにあたりゲラを付けておりません。審議後に対談、製本と考えておりますが、内容については参考に追加してあります。詳細は委員長よりご説明させて頂きます。

板元　　：臨時正副での意見対応をさせて頂いております。内容については広報誌の作成とさせて頂いております。ご意見・ご質問がありましたらお願い致します。

井上　　：中身に関して話の内容で変わってくるとのことではあったのですが、項目の流れなどの資料はないのですか？

板元　　：９番項の事業内容に記載していますが、中身が１０Ｐで作成しようと考えております。

井上　　：実際に対談して構成的にはわかるのですが、形がしっかりと出来てから修正議案で上程する流れですか？

板元　　：副理事長からもありましたがゲラのない状態での審議ですので、改めて修正議案として上程を予定しております。

重野　　：配布方法は会員が一人５枚を手配りして余りはＪＣ会館に置いておくで良かったでしょうか？

板元　　：はい。その様に考えております。

重野　　：いきなり５枚渡されて困る会員もいると思いますので、事前に意見を聴くなど工夫をしてください。

竹下　　：今日で審議を取らないといけない理由を教えてください。

板元　　：広報誌を使ってＪＣの説明資料として使いたいと思っております。

竹下　　：この広報誌をやる前提ですよね？そもそもなぜ広報誌が必要な理由はなんですか？広報誌がないと出来ないのですか？

板元　　：広報誌があることでより良くなると考えております。活動内容や想いについて紙媒体におこすことで、会員が説明しやすくなると考えております。

竹下　　：では、今までやっていたパンフレットと広報誌の違いはなんですか？

板元　　：パンフレットとは同じにならないように考えております。会員紹介や首長とまちづくりに関する対談を盛り込むことで青年会議所の広報が出来ると思います。

竹下　　：説明をする資料を作るのですか？目的は何ですか、会員がＪＣを説明するツールとして作るのですか？

板元　　：目的は対外の認知度を高めると考えております。直接話すことで認知度は高まると思っております。今のＳＮＳは同時進行で続けていく必要はあります。

竹下　　：本質を語っていくうえで、順番をしっかり組み立ててください。広報誌を作る前に必要なものがある。誰がどのように推進するのですか？広報誌の共感を得るために動いてくれる人がどれだけいるの？会館に眠っているのが目に見えている。費用対効果が薄いのは優先順位で戦略がないから。この議案の中で、配布に関する戦略はどこに書いてありますか？どうやったら広報誌を皆が活用してくれるのかを教えてください。

板元　　：配布に関しては、配布方法に記載のところしか考えておりませんでした。

竹下　　：急いで作るより、活用方法が重大だと思いませんか？活用方法がない議案を審議通して何の意味があるのですか？

木野田　：活用方法としましては、霧島ＪＣの会員と拡大に関して意識を変えていく部分について広報誌を使いながらやっていきたいと考えております。

竹下　　：その中のどこに戦略があるのですか？委員会の今年の担いはなんですか？

板元　　：この広報誌に関しては、会員が対外への広報説明として作らせて頂いておりますが、アンケートもとらせて頂き、ＳＮＳでの部分になりますが、どの時間帯に何のツールで情報収集されているかを調査に基づき効果的な時間に更新することが戦略という風に考えております。

竹下　　：結論をいうとこの議案は意味がない。この委員会は、広報戦略を立てる議案を作成しないといけない。その中で広報誌があるのは良いが、広報誌だけの議案ではない。だから順番が違うという風に言っている。まず広報戦略の議案を作らないといけない。戦略をもった広報になってないので。急いで審議をとる意味がわからない。

板元　　：広報誌も含めて戦略と考えているのですが、予算が発生するので広報誌に関して考えておりました。

竹下　　：それだとハロウィンやりますという中でキッズパレードの議案しか出てないのと同じ。もう一度頭を整理して順序立てて計画を作った方がスピードははやい。完璧なものができたら１発で審議が取れる。今強引に審議を通しても想い描く結果は絶対届かない。

木野田　： 副理事長という立場でありながら私の認識不足で申し訳ないのですが、予算が発生する中で計画としましては、どの様に配布するのかを計画立てていけば良いのでしょうか？

竹下　　：大枠があっての小議案、ファンクションがある。広報戦略という大枠の中で小議案として広報誌などＳＮＳなどの手法的な部分が入ってくる。手法の部分審議ならまだわかるが、大枠の広報戦略がない。予算が発生しなくても組織の存続・組織のイメージについては定款にないので議案にださないといけない。それを検討していくのが理事会

木野田　：ありがとうございます。１回で通すつもりで作成して参ります。取り下げとさせて頂きたいと思います。

藏元　　：只今、副理事長の方より審議取り下げの同義がありました。意見のある方はいらっしゃいますでしょうか？

井上　：今後のスケジュールについては執行部、副理事長と話してもらえましたらと思います。戦略について１から作り直すのか？そこら辺を顧問も含めてやった方が良いのかなと思います。

常盤　　：通さなければいけない理由としては、市長などアポイントを取っているなかでという点もあるかと思います。ネット上で配信などは、審議を取る必要もありませんので、一度整理してなぜ急がないといけなかったのかを考えて対応頂きたいと思います。

前田　　：今顧問から出た意見に関しては、正副の意見としても出ております。効果的な広報とは、どの様なものなのか。とってもらう工夫は？という部分に関しては、会員が一人５冊配ると変わりましたが、本当にそれで大丈夫ですか？と思うところはあります。議案に対して覚悟をもって進めて頂けましたらと思います。

藏元　　：色々と意見を頂きましたが、もう一度猶予を頂いたということで、委員会がやる広報戦略ではなく霧島ＪＣ全体で取り組むことだと思いますので顧問・監事と意見を聞きながら進めていきましょう。

重野　　：休憩動議

セコンド：鈴吉、盛田

２１：５５までの休憩で可決。

協議事項１：２０１９年度　５月例会計画書並びに予算書（案）について

木野田　： 今回の方向性につきましては例会のみ、そして終了後に居酒屋の青春と考えております。詳細は委員長より説明します。

板元　　：２回目の協議となります。内容はシニアクラブとの合同例会と考えております。理事長挨拶の後にシニア会長の挨拶を入れる形となります。補足になりますが、先日シニアクラブ事務局の方からは、合同例会について了承いただいております。

重野　　：目的に会員相互の関係性を深めるとありますが、事業内容にシニアと関わるプログラムはなくシニア会長の挨拶のみで構築できるものでしょうか？

板元　　：そうですね。メインプログラムとしては設けておりません。工夫と効果のところにありますが、名刺交換や握手を行う等で会員相互の関係を深めようと思っております。

重野　　：シニアを対外対象者に分けてはどうでしょうか？

板元　　：今回は特別会員という形で考え対内対象者としております。

重野　　：折角のシニアの先輩との合同例会ですので、楽しみにしています。

盛田　　：アンケートに関してですが、２枚となっておりますので予算の関係上１枚にまとめてはいかがでしょうか？

板元　　：互換性の問題かと思います。わたくしのパソコンでは１枚となっておりますので印刷の際には気を付けたいと思います。

常盤　　：シニアとするということで、中身について詰めていっているかと思いますが、正直シニアクラブのＦＡＸ返信率が非常に悪いと伺っておりますので何かしらの工夫をお願いします。アンケートに関しましては、内容が薄いです。これではアンケートを取る意味がありませんので工夫や今後に繋げられる内容にしてください。

板元　　：シニアクラブへのＦＡＸについては、現役の方でＦＡＸ送信と集計、連絡を行う方向性で話を進めております。アンケートに関しては申し訳ありません。精査致します。

井上　　：居酒屋の青春に関して、シニアの先輩と拡大会議を開催とありますが、拡大リストは事前に準備して頂くような設えを行うのか？また、今回の合同例会だけで拡大に繋がるものではないと思いますが、その後のイメージがありますか？

板元　　：例会の前に今の会員の拡大の現状についてお目通し頂きたく思っています。今後、シニアの先輩と一緒にやっていけることなどを模索しようかと思います。

井上　　：折角の機会ですので、単発で終わらず、これをきっかけに今後、個別でも良いと思うので関係性が続いていくような仕掛けを考えてください。

板元　　：一度委員会の方に持ち帰って再考したいと思います。

竹下　　：この議案は、何に対して意見が欲しいのか教えてください。

板元　　：協議ポイントにも記載しておりますが、背景目的・手法について意見を頂きたいと思います。

竹下　　：全委員会認識頂きたいのですが、協議ポイントに書いているということは文章の書き方が変わると思って良いですか？例会をすることの議案の中で何に対して意見を求めているのか、わかりません。意見を求めたいのであれば、もっと詳しく何に対して意見をもらいたいのかを記載してください。なので、協議のポイントはシニアとの合同例会について等の記載をしなければ、何に対して意見が欲しいのかわかりません。仮にシニアとの合同で行う中で、シニア会長の挨拶が必要なのか？などであれば議事録やリサーチの資料がないので判断できません。

板元　　：議案書の１５番項を見て頂けましたらと思います。

竹下　　：背景が、この議案は例会をすることが目的となっているので、協議のポイントをこの様に記載すると何に対して意見をもらいたいのかわかりません。もっと具体的に記載してください。

藏元　　：この背景目的がダメということではなく、意見が欲しいポイントはどこですか？ということだと思います。この参加促進方法で人が来るのか？などであれば協議のポイントに参加促進と記載してもらえましたらと思います。

竹下　　：委員会として、不安に思う部分はどこなのか？意見をもらいたい部分はどこですか？

板元　　：ありがとうございます。参加促進についてご意見を頂きたく思います。直接的に関わりのない先輩方への対応方法などアドバイスを頂けましたらと思います。

竹下　　：勘違いしないで欲しいのは、理事会は議案を作る場所ではありません。もっと議案に向き合って、理事会を想定して議案を作らないと方向性もずれるし、何をやらないといけないのか見えてこないと思います。この議案に関して意見はありません。

前田　　：シニアとの交流会とのことで、近年なかった良い取り組みなのかなと思います。シニアの方々の参加促進で言えば居酒屋の青春をします。といってくるのか？懇親会なので議案に追加はしなくて良いのですが、どの様な流れでやるのかをしっかり組んで正副等に出してもらえましたらと思います。居酒屋の青春にもルールがあるのでもっとリサーチをしてください。例会と懇親会を切り離して考えていいのかなと思います。懇親会の方を討議で上げるなどしてもいいのかなと思いますので、次回までに再度委員会で考えて頂けましたらと思います。

板元　　：参考にさせて頂きます。

藏元　　：直前からもありましたが、別が良いのか委員会の方で話してみて最善の形で上程してください。懇親会の内容に関しては拡大大作戦とかでなく、関係性を深められる機会にして欲しいと思います。ビジネスの機会などとっつきやすい内容で考えてもらえましたらと思います。昔みたいにテーブルごとでテーマが違う形で行うなど委員会の方で考えてみてください。あと、監事から意見がありました今後についても話をさせて頂いております。

板元　　：参考にして再考させて頂きたく思います。

南郷　　：以上で、２０１９年度　５月例会計画書並びに予算書（案）を閉じさせて頂きます。

協議事項２：誰もが夢を描けるまちづくり事業計画並びに予算（案）について

田上　　： ２回目の上程となります。詳細につきましては盛田委員長より説明させて頂きます。

盛田　　：前回の正副、事前配信に関しましては黄色マーカーで対応しております。よろしくお願い致します。

南郷　　：予算についてですが今、見積もりがチラシとポスターしかありませんが、他の見積もりは今後とりますでしょうか？

盛田　　：コンテストの賞品などを考えておりますが、実際の事業で使用する予算についてはコンテストが終わった後に修正議案として上程したく思います。

南郷　　：今の賞品についてですが、コンテストの中で使用するということでしょうか？

盛田　　：見積もりの方を準備したいと思います。

鈴吉　　：コンテストをするということで、若い世代の人たちにコンテストを実施し、事業を実施するという流れでまちがってないでしょうか？

盛田　　：おっしゃられる通り、グランプリの事業を若い世代の人たちでやっていきたいと思います。

鈴吉　　：９番項が対外の人に記載されていると思うのですが、対内目的達成のための手法が見えないです。また前回の正副ではコンテストは、勉強会の後に実施や学校対抗で意見を出してもらうなどと意見がありましたが

盛田　　：学校単位としてしまいますと姶良・湧水長など他の地域の巻き込みが難しくなるかと思います。

鈴吉　　：学校対抗にしないといけないわけではないのですが、指摘と対応の欄に関しては表現の修正をお願いします。

橋　　　：昨年のまちづくり事業は、コンテストを行ったところでありますが、どれぐらい案件が集まったのか教えてださい。

盛田　　：昨年の数に関しては、まだ話を伺えていないところです。参考にさせて頂いているところとして、佐世保ＪＣや大橋ＪＣのまちづくり事業を参考にしておりましてまだ話は聞けてないのですが、今後話を聞く流れで考えております。

橋　　　：昨年もスムージーという割と考えやすい案件でありながらなかなか集まらない中で、まちづくりという題材の中で応募者がいるのか不安に思います。昨年と違った応募を集める工夫がありましたら教えてください。

盛田　　：昨年を参考にしておりまして、特にありません。他のＬＯＭの意見を反映することで有効であると考えております。

橋　　　：鈴吉副理事長からもありましたが、コンテストに拘っていくのかを踏まえ委員会で話をしてもらえましたらと思います。

常盤　　：募集要項を見るのですが、委員会メンバーでどの様な案が出ましたか？まず、委員会で考えてみましたか？

盛田　　：まだ、委員会の方では出来ておりません。

常盤　　：もう２回目ですが、１回目出す前に委員会でやってないと実際に委員会で揉んだことになるのか？方向が正しいのか？まず委員会の中で盛り上がってくるような内容にしないと共感は得られないと思いますので早急に行って頂けましたらと思います。

盛田　　：事前アンケートも出させて頂いたのですが、その様な感じで委員会の方にも意見を頂きたいと思います。

井上　　：配布リストを見たのですが、ただ広報しても集まらない。まちづくりに興味がある若い人なのかまちづくりに興味のない若い人なのか。ターゲットをもっと絞ったうえで配布リストを考えてもらえればと思います。あと、ＳＤＧＳについて記載がありますが、どんな工夫をしてどのゴールに繋げるのか？もう少し一つ一つを細かく考えて記載するようにしてください。

盛田　　：具体的なターゲットの設定ですが、この後学校への訪問も考えておりますが、効果的な広報、参加促進ができるようにします。ＳＤＧｓについては、具体的に表記できるように内容を揉んでいきたいと思います。

竹下　　：コンテストをする理由はなんですか？

盛田　　：事業計画にも謳ってあるのですが、考えて頂く機会をもって頂くことで郷土愛に繋がると思ってコンテストという形式を使用させて頂きました。

竹下　　：コンテストはわかりやすくないといけない。まちづくりのコンテストをします。としたときに一般の人はまちづくりの案なんてもってないです。ＪＣ会員ですら持ってないのに出来ると思いますか？

盛田　　：確かに難しいと思います。

竹下　　：コンテストには目的がある。コンテストが悪いわけではないが極論を言えば自分の郷土の誇りの絵を書いてもらうなど、人が関わりやすい様に考えないと応募は集まらない。コンテストですべてを解決するのは難しい。コンテストで情報を集めて政策にもっていくという風に考えないと。コンテストで出たものをやるのであれば、そこにＪＣは必要ない。またコンテストに出せる様な案を持っている人は自分でやっている。コンテストをするのであれば、子供でもわかる様なものにしてください。

盛田　　：ありがとうございます。コンテストに拘っていたわけではないのですが、ふわふわしておりましたので改めて応募しやすいものを考えてきたいと思います。

竹下　　：応募する人からどんな情報が欲しいのか？何の情報が欲しいのかを明確にしたうえでしないといけない。美人コンテストは芸能事務所が売れる人財を入れるためという風に目的がある様にコンテストをする際は、対象者からどんな情報が欲しいのかを明確にしてください。

盛田　　：今一度、委員会で意見を頂きまして考えてきたいと思います。

前田　　：こちらも正副で、まったく同じ意見が出ている。委員会でもやってみたのか？コンテストの難しさ。現状では難しいであろうという正副での見解でありましたので、対外目的にあるように未来を担う人材育成をする。囲い込んで教育をしてその中でコンテストをするという形が良いのではと思う。背景、目的に対してコンテストが最善なのか？手法ありきにならずにもう一度ストーリーを考えてみてください。

藏元　　：コンテストに縛られていた感じはあったのかなと思います。事業計画に謳ってはあるのですが方向修正をしなければ失敗してしまうのではと思います。あと、委員長も書いておりますように仕組み作りをしますとあります。所信にも政策を立案し若い世代が実行すると記載しています。まずは自分たちが仕組みづくりをして政策立案そこに運営として参画頂くなど考えてもらえましたらと思います。

盛田　　：事業計画に記載しているコンテストに引っ張られていたと思います。仕組み作りについて話をしたいと思います。

南郷　　：これで誰もが夢を描けるまちづくり事業計画並びに予算（案）を閉じさせて頂きます。

鈴吉　　：延長動議

セコンド：田上、板元

２３：４５までの延長で可決。

重野　　：休憩動議

セコンド：田上、板元

２３：１５までの休憩で可決。

協議事項３：２０１９年度６月例会計画書並びに予算書（案）について

鈴吉　　：先ほどの４月例会と同じく例会の中でメインプログラムを行う形ですので、背景・目的に関しては、修正させて頂きたく思います。

重野　　：今年の研修事業への参加意欲を高めることを目的としています。使用時間が９０分となっておりますので、進行表をスマートにしております。

板元　　：参加促進のところですが、ＦＡＸでの案内送信をしないですべて電話連絡をするということでよろしかったでしょうか？

重野　　：ＦＡＸについて、返信率が悪い現状がありますので、ＬＩＮＥ並びに電話での連絡とさせて頂きたく思います。

木野田　：近年、出席率が悪いという根拠はなんでしょうか？

重野　　：根拠として１００％達成がないということで低いと考えていますので、１００％に近づけられるよう努めたいと思います。

木野田　：参加に関して消極的な会員に対しての工夫はありますでしょうか？

重野　　：仲の良い会員からの連絡が効果的であるというアンケート結果がありますので確実に試行していきたく思います。

木野田　：会員は得るものがあれば来ると思います。今回講師をお呼びするので、社会人基礎力とはなにか？周知していくことが出来れば良いと思います。

重野　　：概要書を作成の上周知を図りたいと考えておりますので、計画書にも記載したいと思います。

井上　　：選定理由をみさせて頂いてのですが、リーダーシップや経営コンサルの内容での研修を考えていますか？

重野　　：内容は社会人基礎力の周知で考えております。

井上　　：副理事長からもありましたが、事前に伝えらたら良いと思います。

常盤　　：今後の打ち合わせもあると思いますが、委員会メンバーの共感とメンバーから説明が出来るように重野委員長らしく皆を引っ張って頂けましたらと思います。

前田　　：拝見目的に関して、研修事業への参加意欲を高めるとある中で、唐突に講演という手法が出てくるのですが、どの様に高めるのかが見えまぜん。学んできた内容をもっと参考資料にいれた方が良いと思います。意欲を高めるとしているので参加促進に対しての意見も出ると思います。

重野　　：研修に繋がる案内から内容まで考えてきたいと思います。

藏元　　：直前からもあったところですが、目的はちょっと違いますよね。結果、参加意欲が高まったという形が良いと思います。アクティブに動いて頂き実際に行動され研修にも出席してきているのは素晴らしいことだと思います。引き続きよろしくお願い致します。

南郷　　：２０１９年度６月例会計画書並びに予算書（案）を閉じさせて頂きます。

協議事項４：２０１９年度１月通常総会報告書並びに決算書について

鈴吉　　： 引き続きよろしくお願い致します。今年度、１発目の報告書となりベースとなるかと思いますので忌憚なきご意見をよろしくお願い致します。詳細は委員長より説明します。

重野　　：アンケートを基に作成させて頂きました。検証の部分を見て頂けましたらと思います。

木野田　：アンケートは次回の総会では内容を変える予定でしょうか？

重野　　：アンケートについては、顧問からもありましたようにより精度の高い内容で意見を頂けるように記載しております。

田上　　：実施上の問題点ですが、事前準備の工夫２についてですが、出席者が３ぶんの２に達したので開催出来ましたというものだと思うのですが委任状も含めているのでしょうか？

重野　　：委任状が１００％ですので総会は開催できるという認識でございます。

鈴吉　　：３分の２以上の出席についてですが、当日は越えていたと認識しております。議決は出来ますが、３分２以上会場にいなければ総会の開催が出来ないのか確認したく思います。

重野　　：踏まえて、なぜ１５分前までに来て頂かないといけないのかを記載の上、次回から案内をしたく思います。

井上　　：問題点での審議後に早めに発送する件への対策は色々と記載されている中で、何を引継ぎたいと考えていますか？

重野　　：審議前から発送準備に取り掛かり、即時発送できるよう準備してくださいという引継ぎです。

井上　　：その補足資料に関しては、引き継ぎに記載されていましたか？

重野　　：今回、補足資料に関しては委員会の方で作成させて頂きました。次回に関しては執行部含めたうえで作成したいと思っております。

常盤　　：追加のアンケートがあったと思いますが、次年度の委員長が参考にする際に参考資料はなかなか見ないかと思いますので、議案の引継ぎ欄に記載した方が良いと思います。

重野　　：追記させて頂きます。

前田　　：次の総会で、しっかり対応してください。楽しみにしています。

藏元　　：抜けが散見されますので、全体的に見てみてください。新春懇談会との同時開催についてはメリットデメリットありますので、総合的に判断できるように資料で残して頂けましたら来年が判断しやすいかと思います。

南郷　　：以上で、２０１９年度１月通常総会報告書並びに決算書を閉じさせて頂きます。

監事講評

常盤　　：お疲れ様です。本日、第２回の理事会でありましたが、スタートが遅れました。専務・事務局長が不在の中で初めの方でもありましたが準備しっかりと出来ていないのかなと思いました。これは全体的に言えることであります。どうにか審議を頂いた計画もあり準備が足りていないものが見受けられます。委員長の皆様も計画がズレこんできている部分が印象的でした。早目に動いていくという方向性のなかで、どうしても遅れてくる部分もあると思いますが経験者である副理事長がフォローする形で進めて頂けましたらと思います。顧問からもありましたが、議案の中でも戦略という言葉が出てきました。仕事やプライベートでも活きてくると思います。その部分を考えながら進めていくとより良くなるかと思います。本日は、開始が遅れ定刻に終えることが出来なかったですが、今後このようなことがないようにして頂けましたらと思います。

井上　　：お疲れ様でした。本日、仮会員の審議が２件あり良かったのかなと思います。審議の取り下げの計画もありました。運営に関しても厳しい言葉もありましたが自分も何度か運営側を経験してきたのですが、自分でやることと人にやってもらう、人に任せる・育てることは、役職の担いだと思います。今、専務がしている仕事を普段から気にしていると急な時も対応が出来るのかと思います。委員長方も次の委員長を育てる意味合いで副委員長に任せる部分もあって良いと思います。また、背景目的の中で本質という言葉もありましたが、ボーリングに例えるとセンターピンに当たると１０本倒れることが本質と同じで、問題の本質を治せばすべてが解決しますということです。本質を見抜く３つのポイントがあります。ひとつには、なぜを繰り返して突き止める、何のためにやるのかを考える。反対側の意見を聞いたうえで、客観的に考えてメリットが大きい方を考える。そして実際にやってみて考えることで本質を見抜けるのかと思います。まとまらない話となりましたが以上で監事講評とさせて頂きます。

次回開催

平成３１年　３月１２日　　第３回正副理事長会議

平成３１年　３月２６日　　第３回理事会

１７．閉会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　田上　俊介　　君

議長・理事長（代表理事）　　　　藏元　国明　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　鈴吉　美絵　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　重野　隆太　　　　　　　　　㊞

監　　　　　　　　　事　　　　　常盤　大和　　　　　　　　　㊞